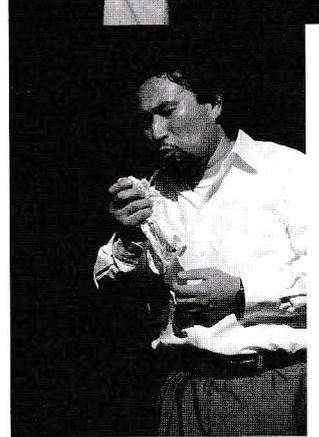
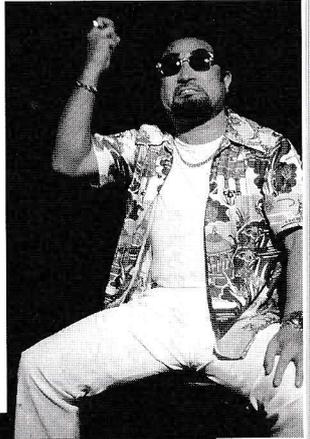


AMUSEMENT SQUARE stage

スペースベンで12月2日～7日に行われた「1 week act solo×2」より。上「あしたはどっちだ」。下「愛の狩人」。



写真/早田寛(写真家)

木村勝一「一人芝居」1 week act solo×2 劇評 馬鹿が単車でどっちどっち

△文/芸能田中組主宰・しもさき博之▽

木村勝一は「漢(おとこ)」である。豪気にあふれる反面、意外にナイーブである。熱血漢でスケベで、喧嘩っ早く涙もろい。そのやや強面する容姿も含めて、あからさまに「漢」である。

黒塗りのハーレーを乗り回していたかと思えば、生後間もない息子の足の裏の写真を年賀状にして贈って来たりもする。そう言えば今年の年賀状も子供の写真だった。(なんだ、単なる親馬鹿か?)
そう、何事にも一途で、前のめりの姿勢を崩さない彼を、一言で言えば「馬鹿」。しかし一本気な馬鹿ほど恐いものはない。

周囲の迷惑をかえりみず強引に力技に持ち込むのが得意で、巻き込まれる面々もそんなに不快でもなく、失笑しつつも彼の後をゾロゾロとついていく。不思議と憎めない。「人徳」と言えば聞こえが良さげか?つまり木村勝一はイイ奴なのである!うっ、いかん、

歯が浮いてきた……、閑話休題。

さて昨年十二月、一週間の長きに渡って柏崎のスペースベンで行われた木村勝一独演会。「あしたはどっちだ」そして「愛の狩人」の二作品。運悪く客席の最前列どまん中に座ってしまった私には、数多い木村作品を象徴する「二面性」が明確に見えたような気がする。まず一作目、巨人の星・空手バカ一代等の原作者として知られる梶原一騎をモチーフとした「あしたはどっちだ」こつちだ。この作品には彼の旺盛なサービス精神がテコ盛りで、最近食の細い私には少々辛いモノがあった。

タイトルは、言わずと知れた昭和の名作「あしたのジョー」からとられたモノ。(別な筆名を使っていた為か、この名作が梶原原作であったことを知らぬ人は意外に多い)骨太の作風と、下品なくらいにエネルギー溢る梶原本人のファンは数多くいる。作・演出の

尾崎周司もその一人。たぶん木村もそうだろう。しかしここで問題とされるのは、そのシンパシーのベクトルが、作中人物の矢吹丈に向くのか作者の梶原本人に向いているのかが不鮮明であったということ。偉大なるカリスマ「あしたのジョー」に原作者梶原は、ノックアウトこそなかったものの、TKO(トキオではない)されてしまったかのように思える。

さてもう一作目、五十嵐隆の脚本を、木村の盟友で東京在住の叙情派の名優、三浦哲郎が演出した「愛の狩人」ロマンティックな題名とは裏腹に下着、いやパンティ泥棒の悲哀を唄ったこの作品は、木村のもう一つの面が光っていたように見えた。

そのイカつい外見の内に秘めたナイーブさ・センチメンタリズム・やせ我慢という自虐的な美学・そして優しさ(いかん、また歯が浮いてきた)が客席を包みこむ。いつものパワフルな演技をジーンギスカン四千円食べ放題コースとするならば、この作品は上質の松坂牛のしゃぶしゃぶのようであった。意味不明の比喩でゴメン。

そして千秋楽、舞台上から木村は観客を含む全ての関係者に感謝の言葉を放ち、涙を溢す。髭面をグシャグシャにして、彼は涙を溢れさせる。男の涙だ。観ているこちらがコッ恥すかしくなる程の。そうか、やっぱり木村はイイ奴なんだな、馬鹿だけ……。

2月の Friday Amusement Negative Shop

■13日～15日 イージーシアター我楽多屋「4/3」(210回)

作・演出/長尾広海 出演/宮崎睦子、堀切川由香、月籠聡子
一年の中でも、春先と秋には、芝居などが数多く上演されている。
一昨年までは、我々も、本公演を初夏に、月間公演を秋に行ってきた。ところかも昨年は、7月の本公演のみであった。秋口には、様々な方に「次の公演は?」というようなことを聞かれ嬉しくもあったが、あえて「未定です」というようなことを答えていた。
そう、1997年7月の第5回公演から、いままで約半年。我々、イージーシアター我楽多屋としては、思いのほか長く、公演から公演までの間があいていた。
そして、1998年2月。
いろんな舞台を見に行っっては、共感したり反発を覚えたり、もう、ウズウズして仕方無い!と、何だかイイ感じの劇団員が私をつきに来た。これだよ、これ! この感じ! いいねえ。と、待ってましたとばかりに公演を決める。
世間は、バレンタインデーというイベントにバカバカしくも賑やかに騒がしい頃だろう。浮き浮き気分の方も、寂しい方も、お忙しい方も、ちょっとお時間拝借。
作品のタイトルは、「4/3(さんぶんのよん)」。
いつものように、大仕掛もない、どんでん返しもない、派手さもない。ナイナイづくし! はっきり言ってしまえば「ナンデモナイ」ことだけが、この作品の骨背だ。この頼りなさ! 危うさ!
1998年、イージーシアター我楽多屋。どうなることやら……。
どうぞ、この「舞台」に足をお運び下さい! (文/イージーシアター代表・長尾広海)

番組変更の場合もありますので、内容についてはデーリー東北の「あすのメモ」「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

■6日

未定(209回)
※演劇ビデオ上映会の可能性有。

■20日

未定(211回)
※演劇ビデオ上映会の可能性有。

■24日～27日(4日間公演)
ひま人VOL14(212回)
脚本・出演/田中勉
おなじみひま人シリーズ第14弾!
田中勉の一人芝居(30分～1時間程度)でお送りいたします。

全午後7時30分～
料金500円

※FANSは多目的スペース『スペースベン』にて、毎週金曜日(毎月最後の週の火曜日～金曜日)には30分～1時間程度の「ひま人シリーズ」作品を上演の夜に約30分の芝居を楽しむ企画です。聞スペースベン 八戸市柏崎1丁目11-8 ☎&FAX 0178-43-9876

車での来場はご遠慮下さい。(近くに西町書店駐車場有り)

24